

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390101669		
法人名	株式会社 富永調剤薬局		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	岡山市南区川張1300-1		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=33">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=33</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和 6 年 3 月 28 日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者の方が日々の生活が楽しく満足して頂けるよう、日々のアクティビティーを考え取り組むようにしている。また、1回/1ヶ月季節に因んだイベントを計画し、季節を感じられるようにしている。誕生日会では、ケーキ作りやおやつ作りなどご利用者様と一緒に作っている。当事業所は薬局が経営しており、また訪問看護事業も行っているため、体調不良者が出た時には薬剤師、訪看がすぐに対応出来る体制となっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

職員は日々入居者との関わりを大切にし一人ひとりを知り本人にあったケアを行うことに努めていることで入居者が穏やかに毎日を過ごしている様子が窺えます。職員同士の関係も良好で何かあれば話し合える環境があり質の高いサービスの提供に繋がっています。医師や同法人の訪問看護事業との協力があり、月に2回の往診だけでなく日常での事や看取りになってもすぐに相談できるので医療面で入居者や家族、職員も安心に繋がっている様子が窺えます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、玄関ホールに掲示し、全職員がいつでも目にすることが出来る。毎朝の朝礼で唱和し、実践につなげている	職員は理念を振り返った後にケアを行っているため、日々理念に基づいたケアを実践できている様子が窺えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1回/2ヶ月の運営推進会議の場で行政や地域との交流を図る為の情報交換を行っている。また、地域の催し、イベントなどに参加させてもらい、地域交流を図っている。	コロナにより地域との交流が出来ていませんが、今後はコロナの情勢をみながら以前のように地域行事(川張サロン等)への参加ができるように検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会、委員会等を設け、研修で学んだことも併せて運営推進会議等で発表し、地域の方々に理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況報告、勉強会、委員会の内容をお伝えし、各参加者からはお電話やファックスで意見を頂き参考にさせて頂いた件については次回の運営会議で報告している	ホームで行った勉強会や委員会の情報を共有しています。役所や地域包括の方の参加があります。家族にも参加してもらえよう運営推進会議の日時を告知しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地区の町内会長、民生委員、岡山市事業者指導課、地域包括支援センターの方に参加して頂いており、地域と一体化したケアへの支援体制をとっている。	何かあれば連絡取り合い相談などができる関係性が築けており、変更があった情報は随時共有している様子が窺えます。以前は生活保護の入居者や成年後見制度を利用している入居者もいたため情報共有し連携をとっていた事もあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、委員会、研修を設け、また、外部研修を通じ身体拘束についてだけでなく、拘束というものについての知見を深めて、あらゆる拘束をしないケアを実践している。	法人全体での身体拘束委員会があり管理者が会議に出てそこで得た情報を職員に共有しています。声掛けやケアに慣れがでないように気を付け身体拘束にならないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会、日常のミーティング等で啓発を行い、全職員が虐待について正しい理解をし、虐待が見過ごされない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、外部コンサルタント等への相談を含め、権利擁護に関して正しい理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約内容について詳細に説明させて頂き、理解を十分に得て頂いた上で締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に積極的に意見、要望等を聞き取る様に心掛けている。また、運営推進会議でも意見交換を行い、要望を施設運営に反映させられるように努めている。	管理者は顔を合わせた関係性を大切にし、家族が来た際には話をしたり、何かあれば電話し情報を共有するようにしています。入居者には日々の生活の中で意見を聞き反映できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のスタッフミーティングだけでなく、毎朝の朝礼など意見の言いやすい関係づくりに努めている。	日頃から職員は管理者にケアについてや働き方の意見などの話ができる関係性にあります。管理者は職員からの意見を可能な限り反映できるように努めている様子が窺えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの場や個別面談を行うことで、意見や不満の吸い上げを行い細かな対応を行うことに心掛けている。またできる限りではあるが有休消化を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作り、職員のスキルアップを図れる体制になっており、研修に対しての支援体制もある。職員の興味のある内容を吸い上げておりマッチングする研修の情報提供をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者とは認知症サポートリーダー会などで意見交流を持っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にご本人の意向を伺い計画している。日々のケアの中で本人の希望があった時は職員間で共有できる体制をとっている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設で日々満足して生活をして頂く上でご家族の意向をうかがい、専門的知識を踏まえてケアプラン作りをするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行う上でのニーズを具体化し計画書を作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が行える施設での役割を設け張りのある生活を送れるように配慮している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の小さな変化も電話や手紙、口頭にて伝え、また一時帰宅時や昔のことなどの小さな情報も聞き取り、家族と施設とが情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話は本人に取り次ぎ自由に話してもらっている。面会制限は設けず、知人の方や地域の方々との交流が出来る様に努めているがコロナウイルス感染対策の為緊急時のみ面会許可としている	職員は入居者が家族のこと等日頃から思い出せるような対話や関わりをしている様子が見受けられ、関係性が途切れないような支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日常過ごされるポジション(テーブルでの席の場所)の最適な状態を考え、利用者同士でトラブルなく、仲の良い関係が作れるようにサポートしている。利用者同士居室を行き来していることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、相談があれば対応させてもらうことを伝え、良い関係でいられるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介助にて得た利用者本人の思いを最大限に尊重し、カンファレンス等で検討したことを通じて自立支援を行っている。	入居者一人ひとりとの関わりを大切にしていることで本人の立場に立ったケアに繋がっています。入居者に変わりがあれば月に1回のミーティングで情報共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、その方の過ごしてきた生活や環境を施設内での生活とどう融合していくかを考えてケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人の生活のペースを尊重している。自発的に話す内容を尊重し残存機能の維持、向上を目指して生活リハビリを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやケアカンファレンスを頻回に行い、チームで情報共有し統一したケアを行っている。利用者に担当職員をもうけモニタリングを担当職員がおこなっている	担当職員が行ったモニタリング等入居者の情報を共有し計画作成担当者は現状に即した介護計画となるように努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や業務日誌に記録を詳細に残し、職員が情報を完全に共有できる体制を作っている。毎朝の朝礼ではその日あったことや申し送り事項が漏れなく伝えている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から要望・意見を随時聞き取り、心境の変化、体調の変化などにも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアを活用していたがコロナウイルス感染対策の為中止している。施設の敷地内で得意なことを役割にして活躍してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じ、ご本人、ご家族の要望を聞き、随時かかりつけ医等の受診介助を行っている。	月に2回往診と週に1回訪問看護が来てくれます。何かあればすぐに相談したり、緊急時も医師が往診に来てくれる等協力体制が見受けられます。専門病院(眼科、皮膚科等)の受診時には家族に協力を得て受診をお願いしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師とは緊密に連携を取っており、体調に変化があった時には迅速に連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には速やかに対応が取れるように病院と連絡を密にし、情報交換、共有が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、本人、家族の意向を大切に必要に応じて随時利用者、利用者家族とインフォームドコンセントを重ね、書面、口頭にて丁寧に説明したうえで、同意を得るようにしている。	看取りの際には本人や家族の意見を尊重した対応に努めています。かかりつけの医師や訪問看護の協力も見受けられます。職員は看取りの経験があるのでチームでの支援に繋がったり、勉強会での学びから最後まで質の高い支援が行えるように努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行ったり、日々啓発を行う事によって不測の事態への即応力を身に着けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、また災害対策についての勉強会や研修を設けて災害時に対応できるようにしている。	コロナによりホームだけの避難訓練になっていますが今後は地域の人の参加も検討しています。火災での避難訓練がメインになっており、今後は作成した業務継続計画に沿った避難訓練を実施する予定です。	今後も想定外の災害に対応できるような訓練や準備を行うことに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を最大限尊重し、尊敬の念を持つと共に、接遇についても自己研鑽や勉強会を行い、クオリティの高いケアを目指している。	接遇に関する勉強会を1年に1回～2回継続して行うことで慣れが出ないように努めています。職員は入居者一人ひとりの距離感を踏まえた関わりをしている様子が窺えます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定や自己判断が出来るような声掛けや選択肢を与え利用者が意思表示がしやすい関係づくりを普段から行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の意見や希望を聞き、生活習慣にあった時間の使い方が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望を聞きながら、ご本人の身体能力に合わせた身だしなみ・おしゃれが出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は季節を感じた食事が出来るように畑で野菜作りを行っていたが、新型コロナ発生以降出来ていない。感染状況を確認し、感染対策を行った上で徐々に再開していきたい。	同法人の他事業所より食事が届きます。入居者に合わせた食事形態(ミキサー食等)を提供している様子が窺えます。日々のメニューが決まっているので誕生日やおやつを入居者と手作りし楽しみが持てるように工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水に関する勉強会を行い、高齢者にとっての水分摂取の大切さを職員全体で認識している。そして、ひとりひとりにあった食事量、食事法、水分量、摂取のタイミングなどを考えながらのケアを実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人や職員介助にて口腔ケアを実施し、また食事の際にも口腔内の状態観察を行い状況把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力にあった支援が出来る様に努めている。意思伝達が困難な方には定期的な声掛けを行い、排泄支援を行っている。タイムスケジュールで個人の排泄のリズムをつかみ個人にあった時間帯で介助している	本人の気持ちに寄り添いながら自立に向けた支援を心がけています。職員は話し合いと実践を重ね一人ひとりにあったケアが行えるように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の申し送り時に排便状況を詳細に共有している。定期的な運動と水分摂取、おなかのマッサージや食べ物で便秘にならないように努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調面を考慮しながら、週3回以上は入浴して頂いている。	週に3~4回入浴支援をしています。機械浴の導入で入居者全員が湯船に浸かることができる環境があります。体調によっては清拭をし保清に努めている様子も窺えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとの生活習慣を尊重し、気持ち良く休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体が調剤薬局であり、個人ごとにかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師を設定したことで、服薬管理、服薬支援については丁寧な対応が行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに合った楽しみ、役割を見つけて頂き、日々の生活が単調になってしまわない様に努めている。可能な限り毎日集団レクリエーションを行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントを企画し、体調を考慮しながらではあるが敷地内の畑や近隣の公園へ散歩などをコロナウイルス感染対策に注意しながら行っている	3月31日にはお花見を計画しています。家族の協力を得て美容室などの外出をしている入居者もいます。今後も感染対策に注意しながら外出できるよう検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に金銭管理は事務所で一元管理している。しかし、外出等の際には自分のお金を自由に使うことを楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、電話・手紙の制限は設けず、その都度要望があれば行えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に過ごせる様に、温度管理を行っている。電灯を明るすぎない、温もりのあるものを取り入れている。また、外光を取り入れるように天窓をつけ、自然光も使っている。	季節の壁画は入居者と職員と一緒に作成しています。天窓や居間の大きな窓からは自然光が入り明るく開放的な印象が見受けられます。職員は穏やかな雰囲気を入居者も居心地よく落ち着いて過ごせている様子が見受けられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、外や中庭を眺められるような場所に小さい机、円卓、椅子を設置し、一人になりたいとき、少人数で会話を楽しみたいときに使用できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みのものがあれば入所時に持参頂く様お願いし、入所後に快適に過ごして頂けるようにしている。	広々とした居室には馴染みの物が持ち込まれ一人ひとりが過ごしやすい居室作りがされている様子が窺えます。入居者に合わせた配置により安全に過ごせるような工夫もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別なものは置かず、一般的な家具を使用している。肘付椅子により、立ち上がり時の支持がしやすいようにしている。		